

# 授業にかかわる 関連資料



手順や型の大きさ、できた数、悪い例など生徒たちが分かりやすいように視覚支援を用意し、道具の配置など決めて一人で取り組むようにしています。



生徒ができる作業を精選して、分業制で取り組んでいます。作業スキルを磨くのではなく、友達同士のやりとりや達成感など将来どんな職業についても働けるよう、コミュニケーションや働く意欲を高める作業に取り組んでいます。



教室前方のホワイトボードに任された工程が一つできるごとに「できました」のマグネットを貼っていくように設定しています。できた数が視覚的に分かりやすく達成感や意欲につながります。



意欲や責任感、役立ち感など感じながら作業ができるように、お店に納品するよう設定しています。



指導者とのやりとりではなく、友達同士のやりとりを設定し、協力したり、責任をもったりするよう設定しています。足りなくなったたら粘土を「〇枚ください」と友達のところにもらいに行く様子です。



「基礎的な学習の時間」では、カードに書かれた色と数の洗濯バサミをかごに入れる学習に取り組んでいます。

# 作業学習「窯業」～働く意欲がもてる作業学習～

<b>単元名</b>	作業学習「窯業」			
<b>児童生徒の実態</b>	<p>本グループには、知的障害を主とし、脳性麻痺や自閉症を併せ有する生徒が在籍している。発達の段階は A～C 段階にある。やりとりについては、発語や文字でのコミュニケーションが困難な生徒もいるが、絵カードやジェスチャーなど、友達や指導者と積極的にかかわろうとする姿勢が見られる。気持ちの調整については、自分の意にそぐわないことがあると、感情をストレートに出して表現する生徒もいるが、指導者の声掛けや自分で気持ちに折り合いをつけることができるようになってきた。</p>			
<b>単元目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーを中心に自分たちで作業を進めることができる。</li> <li>・作業工程を理解し、一人で作業を進めることができる。</li> <li>・友達同士でやりとりし、協力して作業することができる。</li> </ul>			
<b>地域学習の観点</b>	<p>作業学習の中で様々な活動をとおして、仕事への意欲や態度を身に付けることは、将来自分の仕事に責任をもち、それぞれに役立ち感を得る上で重要である。</p> <p>作業学習の中で作業分担をして生徒ができる工程を設定することで、「できた」「やった」という達成感や自己肯定感を身に付けることはもちろん、友達と協力して一つの製品を作ることでそれぞれの工程に責任を持って取り組めると考える。</p> <p>また、作った製品を自分たちで販売したり、地域の花屋に納品したりすることで、意欲や責任感さらに役立ち感も得ることができる。</p> <p>達成感、自己肯定感、役立ち感を身に付けることで、卒業後に仕事をしていく中で、どのような仕事にも意欲的に取り組み、自分の役割を担うことができると考える。</p>			
<b>単元計画</b>	<b>次</b>	<b>時</b>	<b>内容</b>	<b>評価の視点</b>
	第一次 オリエンテーション	2	作業学習について知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーの役割や、作業学習の進め方について知る。</li> <li>・作業目標や自分達で作ったものがどうなるかを知り、見通しをもって作業することができる。</li> </ul>
	第二次 マグネット作り 小皿作り	22	たたら作り、型抜きなどそれぞれの作業分担に分かれて作業する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業工程を理解し、一人で作業をすることができる。</li> <li>・販売や地域のお店に納品することや、納品日を提示し、期限までに製品を作ることができる。</li> </ul>
	第三次 マグネット作り ソーサー作り	31	たたら作り、型抜き、成形など作業分担に分かれて作業する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標個数を友達とやりとりして決め、目標個数を達成するために、状況を見て友達に指示することができる。</li> <li>・目標数や振り返り表を意識して作業することができる。</li> <li>・作業工程を理解し一人で作業することができる。</li> <li>・友達とやりとりし、協力して作業することができる。</li> </ul>

<p style="text-align: center;"><b>必要な支援及び「基礎的な学習の時間」との連動</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品ができあがるまでの作業工程を考え、それぞれの生徒にあった作業を分担して一人で取り組めるように設定した。</li> <li>・留意する点やできた個数などが分かりやすいよう、それぞれの生徒に合わせて視覚的に工夫した。</li> <li>・作業に意欲がもてるよう、実際に製作する製品を生徒たちが事前に使用したり、販売されているところを見に行ったり、地域の花屋に納品したりするように設定した。</li> </ul> <p><b>《「基礎的な学習の時間」との連動》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業日誌での名前や文章を所定の枠内にバランスよく書くことが難しい生徒は、「基礎的な学習の時間」で枠内に自分の名前や学校名など書く課題に取り組んだ。</li> <li>・作業学習でのたたら粘土の数を数えて友達に渡す活動で、正確に数を数えにくい生徒は、「基礎的な学習の時間」の中でも数のマッチングや指示された色や数の洗濯ばさみをかごの中に入れるなどに取り組んだ。</li> <li>・友達から報告を受ける場面で、返事が遅いなど思いどおりのテンポで報告がなかった時に、大声をあげたり混乱したりすることのある生徒については、「基礎的な学習の時間」で、神経衰弱や卓球などルールのあるゲームに取り組んだ。待つことや、自分の思いどおりにいかない時に適切に対応できるよう、ロールプレイしたり絵カードなどを使用したりして対応の仕方の学習を進めた。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>成果と課題</b></p>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒同士のコミュニケーションを高めることや、指導者の指示なく生徒達だけで取り組めるよう分業を設定したことで、生徒一人一人の責任感が高まり、作業スピードや正確さなどが向上した。また、任された工程を自分で考えて行動し、より自立した作業学習に取り組むことができた。生徒同士もお互い友達が作業している中で声を掛けるタイミングなどを自分なりに考えたり、思いどおりにことが進まなくても友達を待ったりするなどの場面が見られた。</li> <li>・実際に製品を使ってみたり、花屋に納品したりすることで、自分達で作るものがどのように使われるかを知り、見通しをもって作業することができた。また、用途を理解したことで、より注意深く製品をチェックし不良品など選定することができた。さらに、納品日や個数など目標をもって取り組み、達成するために意欲的に作業することができた。納品後には、自分達が作ったものが店で売られることで達成感や役立ち感などを感じることができた。</li> <li>・枠内に名前や学校名をバランスよく書くことに取り組んだことで、作業日誌を記入するときも枠からはみ出すことなく、記入することができるようになった。また、日常生活の中でも枠内に記入する場面があるが、そこでも枠をはみ出すことなく記入できるようになった。</li> <li>・簡単なルールのあるゲームをとおして、自分の意にそぐわなかったり自分のタイミングでゲームが進まない中での対応の仕方を学んだことで、自分のタイミングで友達からたたら粘土を入れる箱を受け取れなかった時も、大声をあげたり混乱したりすることなく、友達が箱を渡すまで待つことができるようになった。</li> <li>・「本人のなっってほしい姿」（長期目標）から「作業学習」「生活単元学習」「日常生活の指導」に目標を落とし込んだ。それと同時に「基礎的な学習の時間」でもその目標に対してより迫った課題に取り組むことで、いろいろな「各教科等を合わせた指導」の中で般化され、さらに「本人のなっってほしい姿」にも近付けるようになった。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上記より、「本人のなっってほしい姿」（長期目標）の一つである、「必要な個数を数える」という力は付いてきたが、数を数える学習は小学部・中学部でも取り組まれていた。しかし、きまった環境で繰り返し学習するといった取組が多く、結果的に本人の生かせる力には結びつきにくかったと思われる。早い段階から、様々な環境で般化させることが必要ではないかと考える。</li> </ul>